

第3回 湖西市総合戦略有識者会議

－ 議 事 録 －

日時：平成27年11月9日（月）14：00～16：00

場所：湖西市健康福祉センター（おぼと）3階特別会議室

○出席者

	氏名	分野	職業・役職等	出欠
委員	◎竹田 聡	教育	愛知大学 地域政策学部 教授	○
	○竹島 清一	住民代表	湖西市自治会連合会長	○
	伊藤 健	医療	湖西市医師会会長	○
	彦坂 克巳	福祉	特別養護老人ホーム光湖苑 施設長	○
	袴田 雄司	教育	湖西市教育委員会委員	○
	柴田 和利	産業振興	湖西市商工会 事務局長	○
	内山 安弘	産業振興	新居町商工会 事務局長 新居町観光協会 事務局長	○
	彦坂 初保	産業振興	湖西市農業振興協議会 会長	○
	森下 展安	産業振興	プライムアースEV エナジー(株) 経営管理部主査兼経営企画グループ長	○
	高柳 陽子	子育て	なぎさ保育園 園長	○
	高林 宏明	地域公共交通	遠州鉄道(株) 運輸事業部長	○
	飯田 宣子	交流・ 移住促進	湖西市教育委員会委員 NPO 法人新居まちネット 理事	○
	渡辺 真一	金融	静岡銀行 湖西支店長	○
	安形 秀幸	金融	浜松信用金庫 法人営業部 地方創生戦略推進センター長	○
	野末 ゆかり	労働	湖西地区 労働者福祉協議会 事務局次長 静岡県労働金庫 湖西支店長	○
	日比野 雅彦	報道	中日新聞東海本社 報道部長	○
	飯田 勝義	行政	湖西市企画部長	○
	疋田 行彦	行政	湖西市子育て支援課長	代理
	青島 一郎	行政	湖西市市民経済部長	○
事務局	鈴木 徹	湖西市 企画政策課 課長	○	
	小倉 英昭	湖西市 企画政策課 課長代理	○	
	岡部 雅史	湖西市 企画政策課 主任	○	
コンサル タント	平田 雅也	玉野総合コンサルタント(株) 静岡支店	○	
	堤 博紀		○	

◎：委員長 ○：副委員長

1. 開 会

2. 委員長あいさつ（竹田委員長）

第3回の総合戦略会議を開催いたします。

前回2回までの議論を踏まえまして、お手元のA3の資料2-2「湖西市・まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案骨子）」を作成するところまでしていただきました。あとは、資料1のほうですが、こちらは湖西市の人口ビジョンになります。こちらは、国の人口ビジョンが昨年12月に制定されまして、その後、先月静岡県の人口ビジョンが制定されております。これらを踏まえまして、「湖西市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン計画書（素案）」、こちら素案の形ですが提示されることまでできました。

今日は、この二つを中心にじっくり質疑を交えながらやっていきたいと思っております。できるだけ細かく切って質疑を入れるようなかたちで進めていきたいと思っております。あと、事前に意見、質問票等、出している分もありますので、それも進行に合わせて質疑の中に入れていきたいと思っております。

それでは、事務局からよろしくお願いたします。

3. 議事

(1) 人口ビジョンについて

<コンサルタント>

説明（資料1、追加資料）

(質疑・意見交換)

<委員長>

- ・ありがとうございました。これまでの説明に対して意見や質問票がありましたら先にそちらからお願いしたいのですが、質疑等ありましたら挙手をしてお願いいたします。
- ・この部分に関しては、事前に質問票とかはありませんでしたか。先に進めてよろしいですか。

<日比野委員>

- ・さっきの説明で、「出生率の上昇」のところで、(2060年の出生率推計は)2.09。「将来ほしい子どもの数（理想とする子どもの数）の希望をかなえるための施策展開による上昇」とありますが、これに関する元資料は、冊子のほうの46ページだけでいいですか。
- ・図49で、「将来ほしい子どもの数2人」というのは53.3%ありますね。その下の（グラフの）「将来ほしい子どもの数」【「将来ほしい子どもの数（男女別）」】というのは、上の表の内訳を落としているということでもよろしいですか。数字がちよっとよくわからないんですけど、下の図50で、「3人以上」となっているのは、「全体」で27.1%。上（の図49）でも27.1%。
- ・ここで「2人」というのが7.2%になっていますが、上を見ると53.3%ですね。この（二つの）表は連動しているのですか、連動していないのですか。それとも、図50は全く間違っているのですか。わかりますか。言っていること。この53.3%というのはどこへ行っちゃったんですか。連動していないか。肝のところですから、ちょっと気になるところです。

- ・将来3人（以上）ほしいという人が一番多くて、すごってなんか信じられないですけれどもね。
- ・わからないなら先に行ってもらって結構です。
- ・基礎的な数字から出した2.09というのは、何らかの方法ではじめてみえると思うものですから。元がはっきりしないので。

<コンサルタント>

- ・2.09の出し方につきまして先にちょっとご説明しておきます。実は、先ほど説明した内容の詳細版が、54ページの一番下から58ページまで、人口の割合とかも含めていろいろ提示してございます。2.09の根拠というのは、ここ（54ページ）の下部分です。
- ・今回、この「(将来)ほしい子ども数」につきましては、女性回答者580名に対しての数字ということで算出したものです。それで、無回答の方が24名いらっしゃるの、その分を差し引いて、「各回答者の数×人数」、それを全体の回答者の人数で割った結果、2.09という数字をはじき出しております。

<日比野委員>

- ・これでいくと、「2人」が311が一番大きいわけですよ。
- ・ということは、図50が間違っていたということですね。
- ・何が正しいのかよくわからない中で数字が出てきているかたちになっている。

<コンサルタント>

- ・図49は間違いない。図50の内訳につきましては、すみません、確認をさせていただきます。

<日比野委員>

- ・というか、これ、上の情報を使っているのでしょうか？ 連動しているのでしょうか？ 違う？

<コンサルタント>

- ・上のグラフの集計から男女別でクロス集計をかけていますので、上に関しましては単純集計のところですので問題ないと思います。
- ・ちょっと確認させてください、すみません。

<日比野委員>

- ・いいです。以上です。

<委員長>

- ・49も50も、アンケートの同じ設問から作っているわけですよ。3名が、性別がわからないから全体の数、サンプルサイズが三つ違うだけということで、基本的には同じ設問から集計しているんですよ。

<事務局>

- ・設問自体は同じです。集計の仕方がおかしい。

<委員長>

- ・図 50 は、合計して 100 にならないですよ、構成比の、入っているのが、こっちが間違っているんじゃないですかね。緑のところを幅で読むと 50%超えるぐらいかと思えますので、この入っている数値が間違っているのかなと思います。

<コンサルタント>

- ・そうですね、おそらく入っている数字のリンクがおかしいですね、すみません。

<委員長>

- ・そうですね。

<事務局>

- ・例えば「全体」の「7.2」も 10%を超えていますので。ここは確認させていただきます。

<委員長>

- ・この数値を直せば多分正しいかたちになるということなんでしょうね。男女別ではないですけど、図 49 の数値のほうが正しいということですかね。内訳の数値が、構成比が間違っ表示されているということでご理解いただきたいという感じですね。

<日比野委員>

- ・根本的なことですが、いいですか。要するに、将来ほしいという人数を基に目標をつくっても間違いではないと思いますが、ものすごくそれは、例えば現状でいっても差異がある。
- ・それを、この希望の数字が実現したということを前提にこの数値を出しているというふうに理解できるのですが、それが果たして目標として正しい目標設定の仕方なのかどうか。根本的なところの考え方を、皆さんがそれでいいということであれば全然問題ないですが、目標としてあまりにも高くないかという考え方もできると思うんですよ。最大規模の数値を基に数値をはじいて、目標として正しいものとして置けるのかという、その考え方、この計算式自体ですが、湖西市のビジョンの最終結果として、それでいいんですかという。これを目指すんだという考え方であれば何の問題もないかと思いますが、あまりに楽観的過ぎないかという危惧を少し持たざるを得ないので、その辺、ほかの委員の方々に意見をお聞きしたいなと思います。

<委員長>

- ・県の目標値というか、県のビジョンと国のビジョンと出ていると思いますが、それとあわせてどうでしょうか、事務局のほうから回答することがあれば。

<日比野委員>

- ・こうやってはじくものだという、コンセンサスがあれば、ほかと比較するうえでは大事な数字だと思うんですけどもね。

<委員長>

- ・はじき方としては、社人研の推計ベースに、施策が行われてどう変化するかというかたちでやっていますので、推計の仕方としては、ある種、標準化されている手法だとは思うんですね。

- ・ 61 ページに出てくるグラフは、何も施策を行わなかった場合は青いほうの社人研の推計になるだろうけれども、施策を行うことによってオレンジ色の数値に持っていくという考え方なんです。
- ・ 前に出てきた県の人口ビジョンはもっと楽観的なもので、現状値で見ると、国の合計（特殊）出生率よりも湖西市の合計特殊出生率のほうが高い数字になっているので、それよりも前倒しするようなかたちで目標を設定しているということなんです。
- ・ 施策が行われた場合はこのオレンジ色のところになるであろうということで、それをあわせて施策を考えているということなんです。
- ・ 確かに、本当にこうなるかというのは、疑問なところはたくさん出てくると思います。
- ・ ただ、国が、ひと・まち・しごと創生（総合）戦略を出して、県とか市町村に、戦略を作りなさいというかたちで来ていますので、国の目標自体、目標といいますか、ビジョンですね、それ自体を全く無視するというのも、なかなかいかないと思うんです。
- ・ あと、さらに楽観的な県の人口ビジョンも出ています。それを踏まえてとは言っていないんですが、ここでも「勘案して」と書いてありますが、それを勘案して出した数値ということです。
- ・ ですから、いろいろな施策、この後出てくる、四つの基本目標から成る総合戦略、これらやることによって、2060年に48,000人超というのを目指していくということなんです。
- ・ そういう意味では、ビジョンですが、目標でもあるということです。あまりに非現実過ぎるのかどうかというところは、むしろ皆さんのご意見を聞いてみたいという感じです。
- ・ 県よりは控えめな目標ということでもありますし、現状を踏まえると、国の数値よりも湖西の数値のほうが良いです。国とか県が出しているものよりは、やや現実的ではあるかなという感じはしています。どうでしょうか、ほかの方で。

<伊藤委員>

- ・ 今の、何もしない施策ということでは、具体的にちょっと意見を言わせてもらいますが、今から45年後、ここに残っている人は何人いますか、というようなことですよね。ほとんどいませんもんね。
- ・ それに対して、新しく人口を増やしていく、どんどん増やしていくという目標を考えてやっこの数値ということで、48,361人ですか。
- ・ ですから、とても現実的とは思えない数値かもしれませんが、2人以上生まないとこの数値に達しない。現状のように1人生むか生まないかでは、湖西市もいずれ夕張のように消滅していく市になっていくということで、それをなんとか防ぐための施策として、どうしても2人以上、もしくは2.07をつくる数値を出さなければいけないというところへ来ています。

- ・単純に考えれば、私たちがいなくなったあと、この市はどうなるかということ、将来を託して決めなければいけないビジョンですので、「2」が何だ、「1」が何だというものよりも、今こういう高いハードルを設けて、それに向かって意見を述べるのが大事ではないかなと思います。
- ・現状はわかっています。とうてい無理なことですが、けど、やらなければ消滅してしまうということを心得て皆さんがここへ集まってきているので、やはり、ハードルは高くても、それに対してどういう基本政策を打ち出していくかというのが、この会の必要性というものであると私は思っています。
- ・日比野さんの意見はもっともですよ。もっともです。私は、ただ消滅しないための。

<日比野委員>

- ・単純に計算で導いたものではなくて、ものすごく高いハードルであるということ、認識していただくような起案の仕方とか、そういうのもある程度必要になってくるであろうと考えます。

<委員長>

- ・ほかによろしいでしょうか。では、総合戦略のほうに進めて。

<日比野委員>

- ・すみません、この冊子自体の質問等はしてもいいのでしょうか。ちょっと戻ってしまうかもしれませんが、何点かあるので、では、質問させていただきます。
- ・まず、8ページ、最初のパラグラフで、「新居町との合併もあり」という言葉が入っていますが、この言葉が入っている意味は何なんでしょうか。合併があって、15年6月末現在で、注釈付きですが、「61,292人となっています」とあります。「合併もあり」というのは、どういう意味を持つのでしょうか。
- ・人口については、直近のものについての考え方を前回は質問させていただいたと思いますが、ここでいくら注釈を付けても、この文脈を見ると、よく歴史を知らない人は、新居町と合併したから、10~15年に対して人が増えていますよというふうに読む方もたくさんいらっしゃると思いますので、この表記が不適切ではないかなという気がしております。これは指摘のところですよ。
- ・それから、9ページの図4ですが、全く何が書いてあるのかわかりません。この表については作り直してください。この表を見て数値とか何かがわかるという人は、多分、この会の中にはほとんどは見えないと思います。

<委員長>

- ・図のどこですか。

<日比野委員>

- ・全体ですよ。図の4です。棒グラフの年次自体も、だんだんずれていっているし、数値も読めないし、ちょっとこの表の作り方は、もしこれを説明しろと言われたら事務局は困るでしょう。これは作り直したほうが良いと思います。

<事務局>

- ・それは見にくいということによろしいでしょうか。図がわかりにくいということで、修正、と。

<日比野委員>

・そうですね。

<事務局>

・はい、わかりました。

<日比野委員>

・年次もずれていますよね。ちゃんと作っていただいたほうがいいんじゃないかなと思います。以上です。失礼しました。

<委員長>

・合併のところの説明といますか、ありますか。

<日比野委員>

・多分、歴史的なことをここに入れたかったのではないかと単に思うんですが。

<事務局>

・その表記の仕方につきましては、一般的に考えてあったほうがいいのではないかと、この辺考えて。無駄であれば、削るといようなかたちで、検討させていただきたいと思います。

<飯田（勝）委員>

・今の8ページのところですが、表記自体がなんかおかしいと思うんですよ。2005年にピークになって、減少に転じていて、2010年には60,107人になっていますが、2015年には61,292人と上がっていますよというふうになっている、その理由が新居町等の合併だよというふうに書いてあるつもりだと思いますが、この辺はもう一度整理して文章を書き直したほうがいいと思います。以上です。

<日比野委員>

・すみません、加えて、申し訳ない。その下の図の3にしても、赤い波線がありますよね。これは2010年の話ですよね。そうですね。60,107人。そうですね。だから、下となんかずれちゃっているんですよね。

<事務局>

・点の位置がですね。

<日比野委員>

・うん。それもよくないし、それでいくと、多分、2015年の数字というのは58,975人ですかね。ここではそうなっているわけですよ、数字として。もちろん推計値ですが。

・それにもかかわらず、上で「61,292人」と国勢調査ではない数字を載せているところがまず、それもちょっとずれが（あって）誤解を生じるのではないかと思いますので、「異なる場合があります」と注は付けてありますが、実際に国勢調査でいくのだったら。結果が出るのはもうちょっと先ですよ。

<委員長>

・そうですね。来年だと思います。

<日比野委員>

- ・速報値とかも来年ですよ。それはしょうがないので。ちょっと混乱を招くかなという気もしていますので、その辺も含めてご検討ください。

<事務局>

- ・はい、わかりました。

<委員長>

- ・では、ほかによろしいでしょうか、この冊子全体で構いませんので、計画書のほうで構いませんので、ご質問等ありましたらお願いします。
- ・では、素案といいますか、総合戦略のほうへ進めていきたいと思います。

(2) 総合戦略について

<事務局>

説明（資料 2-1、資料 2-2）

(質疑・意見交換)

<委員長>

- ・ありがとうございました。表 2-2 の真ん中の「主な内容」が資料 2-1 の事業名で、基本目標の割り当てに関しては若干の変更というか見直しがあり得るということですね。
- ・これまでの説明に対して質疑等ありましたら、挙手してお願いいたします。

<安形委員>

- ・意見というか、素案骨子の「基本的視点」の視点 2 に、細かい話ですが、「新産業分野の創出」と表現されていますが、「施策・施策の方向」というところでは「新しい産業の誘致」とあります。イメージとして、「新産業分野の創出」という言葉と「新しい産業の誘致」というのは、おそらく違うのではないかなという感覚が私たちはします。それが 1 点。
- ・それから、例えば、「製造品出荷額等●億円以上」とここに書いてありますので、基本目標に入れると思います。一番右の K P I（を見ると）、「製造品出荷額の県内順位」というのは、目標に入れるというようなことのようにですが、この製造品出荷額というのは、あくまで大企業まで全部含めた数字なのか、中心企業だけの数字なのか。
- ・というのは、大企業も、例えば製造所の出荷額は、工場での生産計画というのでしょうか、生産場所が企業戦略で変わると一挙に何千億という数字が変わるわけですよ、だと思います。例えばそういうのを目標数値にしていくべきなのかどうかというのは、ちょっと私は疑問です。何かご意見をいただければと思います。
- ・例えば、「創出」にしたほうがいいのか。だったら施策のほうも「創出」にして、具体的な事業は何をやるのか、と入れたほうが良いと思います。
- ・そうではないのならば、視点 2 は、「創出」ではなくて「誘致」という表現にしたほうが適当ではないかというふうに思います。
- ・それから、「目標数値」にしても、例えば、「これは大企業を除く」とか、その辺は、明確にされたほうが。例えば市の政策を実施して、どれだけの成果が上がったんで

すかといったときに、大企業には産業政策はあまり関係ないというふうに思います。というか、変動幅が大き過ぎる。それを目標にして果たしていいのかなというところですので、例えば中小企業、統計数字があるかどうかわかりませんが、ちょっとご検討いただければ、と思います。

<伊藤委員>

・総合戦略資料案の（基本目標の）3、「湖西市の若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の枠で、（資料2-1の）2ページの、「新規」ではなくて「既存」の事業として、20番から30番。いわゆる担当課が「子育て支援課」となっていて、それにかかわる予算。多分これはかなり前からやってきている金額の数字だと思います。今からこれだけ必要というわけではなくて、既存でやってきて。これのビジョンの予算は3年間、5年間でしたか。2年前の予算でしたか、既存の予算案というのは。

<事務局>

・これは今年度の数字です。

<伊藤委員>

・今年度からの予算？

<事務局>

・今年度、27年度の。

<伊藤委員>

・これが5年分？

<事務局>

・いや、単年の分。

<竹島委員>

・27年度。

<事務局>

・単年度ですから、1年分。27年度分の予算の数字を入れてあります。単位は千円。

<伊藤委員>

・単年度で、ほぼ満足に事業がいつている事業はあると思います。例えば、「幼稚園等、幼保一体の預かり事業」とか、かなり順調にいつているので、課の予算の配分が20番から30番までこんなにかかるかなというのと。まあ、あくまでも予算なので。
・単年度のほかの新規の事業等に比べても、新規はほとんどないですね。PRとかなんかは、まだ決まってないし、ほかに。ほかにもっと予算を入れたらどうかというような考えの意見です。既存の事業の金額の見直し。まだ先のことで。ちょっと目に入ったので意見を述べさせてもらいました。

<森下委員>

・さっき一番最初に（話に）あった青年就農給付金は最大150万の補助と書いてある。予算が150万になっていますが、これは年間1件を想定している金額ですか。

<事務局>

・年間です。

<彦坂（克）委員>

- ・最大 150 万だと、10 人いたら 15 万円ということですか。そういう考え方ですか。最大なので、わからないですが、そうじゃないですか。

<彦坂（初）委員>

- ・農業をやった関係で解説しますと、それはそうではなくて、1 人当たりの予算枠で、結局、基本的には国とか県の予算が絡んでくるので、多ければ多だけ全部出るかという、それは審査とかあるので一概には言えないですが、これはあくまで市の予算ですね、だから、申請が通れば、それなりに出ますが、それによって市の予算がまた増えるということになるので、これを分けるということではない、そう思います。

<青島委員>

- ・想定した件数で予算を組んでいるだけですので、それを超えれば補正予算等なりして必要なものは上げていきますので、これだと、総枠が今この金額だよというだけなので、金額はこの場ではあまり参考にされないほうがいいかなとは思いますが。お金に関しては。

<彦坂（克）委員>

- ・例えば、子ども医療費助成事業が 235,376 千円とか、非常に細かく数字が出ています。ということは、全体予算があつての配分ということではない。それとか、あと、実績に基づく配分、今のところは、千円単位でしっかり出ているところなので。

<伊藤委員>

- ・そんな計画の中で 1 番から 4 番を可能にしていくためには、やっぱりどうしてもそこを見ちゃうんだよね、ごめんなさい。予算を見ちゃうのでそうなっちゃうんですけど。
- ・優先順位でものをはかっていって、それを実現可能にしていくにはどうしたらいいかというのは、悪いおじさんたちの考え方なんですすみませんね。すみません、議長。

<彦坂（初）委員>

- ・先ほどの関連ですが、総合戦略ということで、15 年から 19 年の「主な内容」となっていますが、自分は農業のことしかわからないので、ほかの分野に関してはよくわからないのですが、予算がいろいろついています、結局、国とか県とかの予算があつて、それに対して申請があれば市は補助をしてということが、僕はこの中にかなり入っていると思うんですよね。
- ・そうすると、市が総合戦略を作って、打ち出して何かをやるというものなのか、国や県が打ち出したものに乗っかって出すというのが、ちょっと境がわからない。ただそれに乗っかるだけだと、この総合戦略が、市として打ち出すものとしては弱いような気がする。その辺、なんか境目がよくわからないので、それをもう少しはつきりして、湖西市独自で何をやるかというのが出てこないとお話ができないかなと、そういう気がするんですけど。

<事務局>

- ・今、予算のお話でしたが、実は、今 2-1 で掲げている事業につきましては、市単独で行っている事業、行おうとしている事業も入っていますし、県からの補助金をもらっている事業もあります。それと、国の補助金をもらっている事業も、今、全部載せています。
- ・それが、今、ちょっとこの表の中では読み取れないのですが、うちのほうでは、その辺の押さえは今しております。国からもらっている補助金につきましては、より拡充をしていくというような意味合いになろうかと思えます。
- ・市独自でやろうとしているものにつきましては、国から交付金をもらえる措置もとっていくというような方向になろうかと思えます。

<竹島委員>

- ・ちょっといいですか。資料 2-2 の中で 2 と 3 は、新しい人、若い人たちに湖西市の中で住んでもらいたいというところ、結婚ももちろん、この中で住んでもらいたいというのがメインになると思いますが、一つの事例を言うと、市の（中に、）家を建てたくても調整区域が非常にかんじがらめになっていて家が建てられない土地がかなりある。具体的に言うと、優良農地というんですか、そんなところもあって、家を建てたいのだけれどもなかなか建てられないというようなことが何年も前から言われています。
- ・そこら辺が、この文章だけでいくと、なかなか見えてこないところがあるものですから、市の独自の事業というわけにはいかないと思いますが、できるだけそういう調整区域を早く解除してもらって、家が建てられるような施策を打っていかないと、ただ文言だけを入れるようなかたちになってしまうものですから、できればそういうところを、具体的にこういうふうなところも、安価な土地を提供していかないと、家を建てるといえるのは、サラリーマンにとっても、一般の人で言えば一生の一大事業になるものですから、ぜひ、そこら辺も含めて取り組んでいただきたいなと思えます。
- ・例えば湖西市の中には大きな会社がたくさんあるというのはよく聞く言葉ですが、市外から通っている人たちがかなりいるわけですね。例えば豊橋の区域から来る、あるいは浜松地区から来る方がいて、湖西市内（に住んでいる人）で大きな企業に勤めている、というのはかなり少ないというふうに聞いているものですから、そこら辺も含めて、どういうふうにして総合的にこの事業を進めていくかということも頭の中に入れながら取り組んでいただければありがたいと思います。以上です。

<委員長>

- ・ほかにどうでしょうか。

<内山委員>

- ・今の意見と、ちょっと乖離するかもしれませんが、調整区域の見直しの関係もあるかとは思いますが、私、ちょっと提案したのですが、今現在、空き家・空き地が非常に多い。要は、あと、事業を承継する方もいなくて、それで貸す当てもない、あるいは、相続がまだできてないとか、いろいろな関係で無駄に空いている建物等もあるわけですね。それらが住まいとして活用できるのであれば、わざわざ家を、調

整区域を見直してまで土地を広げる必要はなくて、現在ある建物をいかに活用するかということも、一つ考えていくのが大事ではないかなと思います。

- ・ そうしないと、空き家が資産ではなくて、非常に荷物になっているような状況が今ありますので、それを、家主が貸しやすいような、そういった施策を市のほうでも出していただければ、そういったところに若い人たちも住めるのではないかな、と。そういうことも戦略の中に盛り込んでいただければなと思っております。

<委員長>

- ・ 空き家問題は、昨年、今年のですか、13.5%が空き家になっているというのが総務省の統計で出ていて、自治体によっても違うんでしょうけれども、周辺の宅地とかの資産価値にもかかわってくるということで、最近はマスコミでも随分クローズアップされるようななったと思うんですね。湖西のデータは、今はちょっとわからないですかね。
- ・ その空き家問題などが解決するような方向でいく施策であるならば、人は入ってくるということでしょうから、そういったこともやっぱり盛り込んでいくことも検討していただければなと思いますね。ほかにどうでしょうか。

<日比野委員>

- ・ 資料2-2のところ、「基本的視点」は1、2、3とありますが、「基本目標」は1、2、3、4と、違う番号付けというか、順番付けになったりしています。これは整合性がない。
- ・ 基本的視点として、この1、2、3をきちんと大きく打ち出すのであれば、やっぱりそういう計画の作り方をしないと、先ほども何度も皆さんが言われていますが、結局総花じゃないのという。右側を見ると総花で、ほとんどが既存の補助金施策。新規、さつき、それこそ。高い目標を掲げるならば、それを実現するだけのネタ出しをここからやっていこうという気概が全く見えないので、単に補助金を、どこに、取りに行くところにどれを入れようかなというのを苦心してみえるだけのように見えますので、そんなことの作業のために。
- ・ 大体国から来るお金も無尽蔵ではないですよ。湖西レベルであればこのぐらいであろうというものの中で、それをどう分配するかという、そういう作業になるのではないかなと思いますけれども。
- ・ 結局、これと人口ビジョンとどうつながるのというのが全く見えません。ちょっと、これ、考え方を改めたほうがいいんじゃないかと私は思いますね。
- ・ それと、細かいことと言うと、あれだけワークショップをいろいろやらせていただきまして、浜名湖、浜名湖という話が出ていましたが、ここに一言もないのは非常に寂しいなというふうに思います。
- ・ 新規の事業で一体どのぐらいの効果が見込めるのかとか、そういう話をちゃんと、特徴的なものでもいいので、例示をしないと、市民から全く関心のない計画になってしまうので、そういうわかりやすいやり方をちょっと工夫されたいかがでしょうか。

- ・例えば、先ほどの農業の話ですが、新規就農者の方にいろいろ補助金制度があります。訓練補助とか、経営補助とかありますが、実際に農協の方、農業に携わっている方からしてみると、その人たちが誰が指導するのという話になる。
- ・結局、県の指導の補助金なんかも、指導者がいない、指導できる体制がないから、結局、受け入れられないのみたいな話が、浜松のほうでもいろいろあるんですね。
- ・例えば農業の話、新しい就農者を増やすのであれば、総合的な考え方の下に、こういう補助金があって、これを有効的に、有機的に使うんだよ、と、そういう計画作りをしない、皆さんの希望が上がってきたものをただ羅列しているだけになってしまって、それはどうかなと。
- ・基本的視点というこの1、2、3を置いてあるのは非常にいいやり方だと思うんです。ですから、もうちょっと、重点のところを、こうやってやるんだよというところを一生懸命作ってみるとか。ほかにいろいろなものを載せるのはいいですが、この左側と右側のところで全く連動性がないというのは、ちょっとこれを見て寂しいなと思いましたので、その辺もわかりやすいものを作られたらどうかなと思います。以上です。

<委員長>

- ・この基本目標の順番というのは、県とかのと、同じにしてあるとか、そういうわけではないんですよね。独自に変えられるんですよね。

<事務局>

- ・国の目標と並びはそろえています。

<委員長>

- ・そういうことですか。むしろ、基本的視点のほうがオリジナリティというか、市独自のものということですかね。

<事務局>

- ・そうですね。

<日比野委員>

- ・だったら、視点1、2、3について、それぞれもうちょっと具体的にわかりやすく、こうやってやっていくんだよということを市民に示すような計画作りを。右側はしようがないですよ、やらなければいけないのだからしようがないんだけど。そういう工夫をされると、より、今回、こういうビジョンを作って、こういう計画が連動してますよということがわかりやすいんじゃないかと思うので、そういう工夫をしていただけると市民によくわかるんじゃないかと思います。

<森下委員>

- ・成功している市なんかをベンチマークみたいにするとかはあるんですか。
- ・作り込み方というので、あといろいろなところでやられている事例がいっぱいあって、うまくいっている市に勉強しに行くとか、そういうのを参考にしたら、今おっしゃっているようないい事例とか、いっぱい転がってないのかなと思う。

<日比野委員>

- ・実際に中核市レベルだと、全国のランキングの細かいものがあります。宇都宮市中心に作ったものがありますが、ご存じないですか。例えば、市民1人当たりの消防車等の台数とか、図書館の蔵書冊数とか、そういうのを網羅的に集めたランキングがあります。

<事務局>

- ・聞いたことはあります。

<日比野委員>

- ・一応弊社のホームページで見れますから。

<日比野委員>

- ・多分、湖西市レベルだと、産業規模がこれだけあるきちっとした市なので、このランキングはかなり参考になる。こういう、ここに書いてあるいろいろな指標、順位が書かれているのがいっぱいありますので、人口1万人当たりとか、そういう数値がありますから、そういうものも参考にしていけると。

<委員長>

- ・それはどこが作っているやつですか。

<日比野委員>

- ・宇都宮です。
- ・みんな宇都宮に協力して、それは、全国の中核市以上をベンチマーク。

<飯田（宣）委員>

- ・2の「湖西市への新しい人の流れをつくる」のところですが、「観光交流まちづくりを推進する」の主な内容に、「Wi-Fi ステーション整備事業」と、「湖西市PR事業」と、「新居関所周辺まちづくり事業」と、「文化の香るまちづくり事業」というのがあります。今までの湖西市PR事業を2-1の表に照らしてみると、「豊田左吉翁生誕150年記念事業の活用により」というところがかなり大きく出ています。そのほかにも、もっともっと観光資源はたくさんあると思うんですが、そちらとの関係は弱いのかなと思いました。
- ・それと、「新居関所周辺まちづくり事業」も、建物を復元する事業にほとんどのお金が費やされると思うのですが、建物を復元するだけでなく、来た人にどう楽しんでもらってお金を落としてもらうか。その地域に魅力を感じて、定住するところまで持っていくのか。右側に「主な重要業績評価指標（KPI）」として「観光交流客数」というのがありますが、来たときにどう観光客を受け入れるのかという体制づくりも、とても必要だと思います。
- ・それから、「文化の香るまちづくり事業」は、今の時点では特に観光に特化したものでもなく、人の流入とか定住に持っていきようなものではない、に限られているものではない、と思いますので、その辺をもう少し意識し、主張していくことが必要ではないかと思います。
- ・それから、先ほども浜名湖という話がありましたが、観光の資源、私たちは、浜名湖や自然環境の資源を生かしてないのではないかということがワークショップの中でも何回も出てきたと思います。例えば観光を一つの産業化にしていくという視点

がちよっと薄くなっているのではないかと感じます。観光が一つの産業になっていけば、そこで雇用を生み出していくこともできると思いますので、そのところの検討をぜひお願いしたいと思います。

<渡辺委員>

- ・今、皆さんからいろいろおっしゃっていただいたこととダブる部分があるかもしれませんが、私は、すみません、地元の間人ではないのですが、ただ、湖西市の強みであるとか、逆に言うと弱みはどうなのかなというふう考えた中で、この基本目標の1、2、3、4という中でいいますと、例えば1番の青いところ、「湖西市における安定した雇用を創出する」、市民所得であるとか、製造品出荷額等、一般的な静岡県内の市町に対して、あくまでですが、ストロングポイントだと思うんですね、割と湖西にとっては。
- ・3番目の緑のところ、合計特殊出生率もしかりかなと思っています。4番はちよっと冗長的な部分もあるのかなと思います。
- ・私は、これは個人的な考えですが、2番のところを、補強される部分の施策をもうちよっと厚くしていただければなと個人的には考えます。
- ・それに対して、資料2-1のところを見ると、基本目標の2番に沿った施策がちよっと少ないかなというふうに考えています。
- ・できれば、先ほどから意見が出ています浜名湖畔とか、観光の部分、こんなところも生かした中で、2番の基本目標に沿った部門を、もうちよっと統合するであるとか、策を増やすであるとか、場合によっては、そういうのもいろいろやっておられる部分があるかと思いますが、それにとられることなく、新しいものをどんどん打ち出していかないと、目新しさが市民に映っていかないのかなと思いますので、その辺のところ、ちよっと再検討しただけならありがたいなというふうに思います。

<委員長>

- ・ほかにどうでしょうか。

<彦坂（克）委員>

- ・先生と私の「医療・福祉」ですが、この中で、医療・福祉に関連するものは、今、「不妊治療」というのがありますが、今回のこの戦略の中には何もないような気がします。
- ・定住自立圏とかなら、私ども、湖西市でやらせていただいているときには、湖西市に、結局、いわば、定住していただくための施策ということで、同じような感じの内容ですが、今回、人口を増やすというのが第一の目的ですね。人口を増やすということは、湖西市に定住をさせる、こちらに呼び寄せる、湖西が活性化することだけで人口は増えるのですか。湖西市だけです、増えるのは。日本の国は減っちゃいますよね、ほかの市町村が。
- ・ということは、根本的に、何を目的に今話をしてるかよくわからない。本当に人口を増やすのであるならば、私ども医療・福祉。要するに、今、高齢化率は、日本は世界一だと思いますが、高齢化率をどんどんもつと上げるとか、出生率ももつと上げるとか、それから、医療を厚くして、病気で亡くなる方を少なくするとか、そう

ということが、人口が減っていくときの一つの施策ではないでしょうか、という感じがしてならない。

- ・ 皆さんからご意見をいただいて、湖西市はこれからすごく活性化するだろうなというお話ばかりで、これはいいことだなと思いますが、本来の目的である 48,000 人程度の人口確保。それは、ただ単に湖西市だけがが増えて、ほかの市町が減ったら何の意味もないような気がしてならない。そういうちょっと広義なかたちの考え方ですが、もう少し、そこら辺を勘案していただければ本当にありがたいかなと思うのですが、どうでしょう。

<伊藤委員>

- ・ 補足ですが、確かに、今おっしゃるとおり少子高齢化で、老人が元気でぴんぴんしていれば人口は増えて、減らないということでおっしゃったと思いますが、趣旨とちょっと違って、この、ひと・まち・しごと創生総合戦略と、私たちのかかわる介護、在宅介護の分野とはまた別なので、この中に入れてしまうとちょっとまずいので、今回はこの。

<彦坂（克）委員>

- ・ おかしいかもしれないけれども、何を趣旨に考えているかということですよ。今回の会議の目的というんですかね。湖西市の活性化のためにという考え方なのか、人口を減らさないための、社人研さんの準拠、要するに、社人研さんの考え方による人口の推計が一番最初に出たものですから、社人研さんはどういった考え方でこの比率を出しているのかということ、まず、（私が）知らないのを教えていただきたい。そこがわからないと出ないんですけど。

<伊藤委員>

- ・ 要するに、働く人が、よそのまちから来て、湖西市を通過して、また他県に帰る。そういう人のないように定住を進める案と、私たちのように、施設とか何かを経営している人は、他県から老人が引っ越してくる。で、そこで施設に住み着いてしまう。それでも人口として上げられるんですよ。
- ・ だから、そういうことで、ちょっと目的は違うんですが、目的というか、項目は違いますが、趣旨としては、「湖西市に行ったら、じいちゃん、ばあちゃんは元気になって住んでいるよ」というようなところもアピールしたいという。全くね、これとはちがうのかもしれませんが。

<彦坂（克）委員>

- ・ （これで）どうこうというお話ではないですけどもね。

<伊藤委員>

- ・ ないですけどもね。ただ、「時代に合った地域（をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する）」の中に、高齢者でも元気に働けるまちづくりというのを入れたいなということですね。すみません。そういうことで、時代に合った地域の中に施策として、1、2、3、4 番目ぐらいに、「高齢者が元気に暮らせる社会」というのをに入れてほしい。

- ・高齢者も、必ずしも認知症になって、どこかへ行ってしまうというばかりでなくて、それを予防するために、みんなが認知症にならないように、高齢者に普段から、「じいちゃん、ばあちゃん、畑へ行こう」とか誘って、手足を動かすことによって健康を維持できるし、認知症も防げるのではないかということも含めて、湖西市に行ったら年寄りが元気だから、みんな一家で定住しようぜというようなまちづくりもあっていいな、というようなご意見です
- ・ですから4の④「高齢者に優しい湖西市をつくる」とさせていただきます。
- ・このようなこともいっぱい出てくると思いますが、日比野さんが言ったように、題目の1番から4番は、国の方針でこういうことをやりなさい、その中で、施策は市独自のものを挙げて、魅力あるものをつくれというのが基本でありますので、別にこの中にあるものをすべてやれというのもおこがましいですし、この中のものにもうちよつと違うものを加えてもいいんじゃないというのもありと思いますので、そういうふうな意見でございました。

<日比野委員>

- ・第三者ですが、福祉については、余裕のあるうちにどれだけ、例えば介護者とかヘルパーとか、それから健康指導員とか、そういう人たちを確保できるか。実際、今から動いても遅いぐらいだと思いますが、給料が高い大都市圏にそういう人が集まってしまって、地方にそういう人たちが配置できないという状況はもう始まっているので、そうすると、安心して暮らせないという、これからもっと。今、若いということは、これから高齢化が進んでいくわけですから、喜ぶべきことですが、将来怖いことになっていくという中で、どれだけそういうところにお金を投下できるかというのは、地方自治体ごとの差がすごく大きいと思いますので、今、本当に伊藤先生が言われたような項目を作られるというのは非常に大事だと思います。

<彦坂（克）委員>

- ・すみません。言ったことで、ちょっと視点が変わって申し訳ないです。もう一回作り直せみたいになってしまっているのでも申し訳ないです。

<伊藤委員>

- ・付け加えるということ。

<彦坂（克）委員>

- ・ええ、付け加えていただくだけでも、われわれ業界としても助かりますのでね、それは。助かるというか、市のためにはなと思います。

<伊藤委員>

- ・これはずっと足を引きずっていく問題ですので。みんな年を取っていきますので。

<彦坂（克）委員>

- ・本当に人口減少は、われわれ業界にとっても、介護ヘルパーとか、そういう方々がどんどん減ってってしまうのは、現実的に減ることなので。増えるわ、減るわでは、もうやっていけないのは当然わかった話。
- ・介護費用とか、そういったものが、どんどん予算が拡大している中で、これからは国もどんどん減らす作業に今入っていると思いますので、なかなか大変だとは思

ますが、ただ、人口を増やすことということであるならば、世界一とは言わないですが、その上の世界一になってもいいものですから、減らさない努力。で、元気なお年寄りをつくる努力というのが、一番の、今、現実的に考えられる、新しく今生まれている方、来る方々ではなくて、今いる方々が元気になって、活性化するのが、今日本では一番早いのではないのでしょうか、という感じがします、考え方としては。そんな感じで、すみません、言いたいことばかり言ってしまって。ひとつ皆さん考えていただければと思います。

<委員長>

・では、ほかにいかがでしょうか。

<高柳委員>

・子育てのほうですが、今、お年寄りのお話がありましたが、人口を増やすということだけを思うと、今、市のほうもやっていると思いますが、子どもが2人産まれた方には幾らとか、3人産まれた方には幾らというふうな、補助というか、支援はしていますが、人口を言っちゃうと、「産んでくれてありがとう」ということなのかなと思います。そうではなくて、産むのはいいですが、産んだあと、母親がしっかり子どもを育児できるかどうか。産んでお金をあげるというのではなくて、育てていくうちに支援をしてあげる。

・ここにもありますが、「働きながら産み育てる」。子どもを産むとなかなか仕事に復帰できないとか、そういう方もいたり、今ちょっと育児ノイローゼという方もみえます。保育園でお預かりしていると、中には相談できなくて、早く保育園に相談とか遊びにできればよかったというお母さんも多いので、そういった方に手を差し伸べてあげるとか、そういったところにちょっとお金を使ってもらって、少しでも、「産んで良かったな」というような支援を。1人産んだから幾ら、2人産んで幾らではなくて、産んだあとの支援をしていって、そういうところをお金もちよっと使っていく方法を考えてもらえるといいかなというふうに思いました。金のことと、人口のこと、ちょっとお話の中で。

<森下委員>

・子育て支援にかけられている金額は、多分ベスト10の8つぐらい、子育て支援関係になっていると思うんですね。

<高柳委員>

・それが一つに全部がというじゃないですよ。

<森下委員>

・10個の内、八つが子育て支援とか幼児教育関係。ベスト10で違うのは、バス運行事業と、企業立地促進奨励金。ですから、けっこう偏っている感じ、偏っているかなと思ったんですけどもね、ここは。

・逆に、将来税金を払っていただけるから、しっかりと市としては増やしていきたい、そういう思いではないかという気がしますよ、ベスト10を並べたら。

<高柳委員>

- ・あと、働くために子どもさんを受け入れるところも必要ですが、やっぱり3歳ぐらいになると、教育という面も。ただ預かってますよというのではなくて、やっぱり教育も含めたものをプラスしてってあげないといけないのかなということもあって、私たち保育園でもらっていますが、決して多いと思いません。そうなんです。

<森下委員>

- ・保育園の金額は、けっこう多く出ていますね。

<高柳委員>

- ・今ここで、「希望する保育園に入園できない乳幼児数」と、こうやって出ていますが、希望する保育園に入れないというのは「入所待ち」というかたちで処理されているものですから、湖西は待機がゼロというかたちだと思います。そういう感じが出ていますが、実際には、「入れなくて」という方も随分いるということで、そこら辺をもうちょっと。入ってきてくれた方に対しては、ある程度保育園等でお世話はしています。だから、その保育料がすごく。

<森下委員>

- ・予算がついてますよね。42番、2,174千円。入所待ち児童の解消、「民間保育所助成事業」。内容はわかりませんが。ないわけではないから。さっきの青年就農給付金が1,500千円。
- ・逆に言うと、バス事業とかすごい額を使っているけれども、本当に価値があるのかなと、僕はちょっと思います。どのぐらいの使用頻度なのか。タクシーに置き換えると、これよりも額がでかいのでしょうか、負担が。どのぐらい乗られているのかわかりませんが、うちの会社で聞いた感じでは、知らないという人もいました、湖西市にいて。使ったことがある人もけっこういるんですか。

<委員長>

- ・バスの場合は、多分、若い人はほとんど使わなくて、車をお持ちでないご高齢の方とか、そういう方が必需品というか、使わざるを得ないというか、ということじゃないかなと思いますけれどもね。
- ・あと、高齢化していくと、バスに頼らざるを得ないという方も多くなるのではないかなという気はします。どのぐらい使われているかとかいうのを含めて、見ていかないといけないと思います。一部の方にとっては不可欠なのかなという気はしますね。
- ・車に載られる方だと、多分、全然知らないとか、そういうケースが多いとは思いません。

<彦坂（初）委員>

- ・実は、それに関連して、余談ですが、僕も普段乗らないのですが、たまたま先週金曜日かな、僕は白須賀ですが、市の農業の関係で市役所でイベントがあって、帰りに二次会でちょっと飲み会があったものですから、車は面倒くさいのでそのバスに乗ったんですよ。そうしたら、朝9時半のバスでしたが、1人かなと思ったら5人ぐらい乗ってきて、その中でも若い子、僕は60なんですけど、50代ぐらいの人と、あと20代ぐらいの若者も1人いて。それで、けっこう乗るんだなと思って。年寄りな

んかだと、こっちの町内からそっちの町内に行くだけ、2区間、3区間でも乗った人もいた。たまたまその日は多かったかもしれませんが。

- ・なので、皆さんも、例えば、今日、鷺津で飲み会があるかといって、タクシー代わりに行きに乗って、帰りにタクシーで帰るとか、そういうのを利用してみるとちょっと面白いかなと思うんですよね。一回試しに乗ってみると、以外と情勢がわかるなと思います。その日、たまたまだったかもしれませんが、予想以上に（利用する）人はいたなと思ったので、感想としては。

<森下委員>

- ・どの便に何人乗っているみたいな調査は常時されているのですか。

<竹島委員>

- ・やっていますよ。今、ちょっとコーちゃんバスの話が出たものですから、非常に利用率が悪いということで、5,000万とか6,000万ぐらい年間予算で使っていますが、乗車する人数が非常に少ないということで、今年、私は連合の役員になったものですから、一応、全自治会で41自治会があるのですが、連合単位でコーちゃんバスを。一回も乗ったことがない人がほとんどですから、一度乗せようというということで、できれば2路線にまたがって—1路線だと、なかなか問題点がわからない。不便だとか、利用者が少ないとか、今委員長が言われるように、若い人はほとんど乗らないとかいうことが言われているものですから、実態調査を一回、1日から2日ぐらいになるかもわかりませんが、一度やってみようということで計画をしているところ。それは市の市民協働課とタイアップしながらやってみようかということで、調査をかけてみようということでやる予定で、今、計画をしています。
- ・それから、もう1点、高柳さんから話が出たやつですが、ちょっと確認ですが、幼稚園の場合は学校区のところしか行けないということで今決められている（ということですが）。保育園の場合は、私立ですから、どこに住んでいようと、例えば、私は南上の原という高台のほうに住んでいますが、鷺津の保育園に行きたいという場合は誰でも行ける。幼稚園の場合は学校区と同じように区域があって、それ以外のところには行けないというシステムになっていると聞いているのですが、それは間違いないですか。

<高柳委員>

- ・保育園は、湖西市に住んでいれば誰でも入れるんですけど、幼稚園。

<竹島委員>

- ・学校区を設けて、学校と同じように区域があって。

<高柳委員>

- ・幼稚園は。ちょっと公立はわからないのですが、私立の幼稚園が1園あるんです。今、幼保園というか、子ども園というのが入出に1園あって、そこは新居の子から、鷺津の子から受け入れはしていますので、どこからでも市内の子なら入れます。

<竹島委員>

- ・それで、何を言いたいかという、幼稚園は、基本的には公立というか、市でちゃんとやっているところですね。保育園は、基本的には「私」、民間がやっているというふうに。

<高柳委員>

- ・いや、違います。(保育園)も三つ、公立でやっています。

<竹島委員>

- ・公立もある(んですね)。それで、そのところは、例えば私たちのところの南上の原からこちらのほうの幼稚園に入りたいよといっても、それは入学することができないと聞いています。

<高柳委員>

- ・入って来れると思うんですけどね。

<青島委員>

- ・今は知りませんが、前は、しらゆり幼稚園に鷺津から。要するに、しらゆり幼稚園のバスは、市内を回っていますよね。それに乗って幼稚園に行っている子がいるのではないかなと思うんですけど。

<高柳委員>

- ・今もいます。今も新居と鷺津が。

<竹島委員>

- ・その公立保育園とはまた別で、私立でやっているところがあるじゃないですか。民間で。それは誰でも入(れる)。保育園でも、まあ、幼稚園と二つあるということですが。
- ・僕が聞いた範囲では、幼稚園のところの、幼稚園ですよ、要は公立というか、そのところは、学校区と同じように設けていて、例えば今一つの事例を言うと、私たちのところから鷺津の幼稚園には例えば入れないというようなルールがあると聞いて。
- ・その場合には、待機児童の数にはカウントできない、と。勝手に親がそう希望しても、ということで、それで待機児童になっていても、待機の数にはカウントされないというふうに聞いています。それで今、間違いがないかどうかを確認したかったものですから。

<高柳委員>

- ・幼稚園のほうの公立はわかりませんが、結局、幼稚園は送迎が徒歩なんです。だから、自分の地元が一番最初から。地域に幼稚園があつて、自分の地元の幼稚園に徒歩で送り迎え。保育園は、働く親の、保育に欠けるといってお子さんを預かっているものですから、車なり何なりで、自分の時間帯、例えば朝7時半に職場に行きたいという方は7時から受け入れているんです。朝7時から夜7時まで保育園を開けているものですから、自分の仕事の時間帯に合わせて、送迎は親が責任を持つてするというので、ほとんどの方が車で送迎しています。
- ・それで、先ほども言いましたが、第一希望に入れられないこともあるんです。例えば岡崎の方が、岡崎保育園に本当は行きたいのだけれども、近いし、職場も近いから行

きたいけれども入れないので、第二希望は鷺津にします、第三はどこにしますと、第四ぐらいまで書いていて、それでも入れないと、待機児童というのかな、そういうかたちです。第一で岡崎を希望しました。第一に入りたいです、自分はここしか行きたくない、とか言っていると、入所待ちというような、ちょっとニュアンス。待機も入所（待ち）待っているのは同じですが、言葉としてはそういうふうなかたちで処理されているというか。

- ・幼稚園、私が知っている方は、地元の幼稚園に入れないうか、ではなくて、ちょっと離れた違うところへ入っている方も見たので、どうしても駄目ということはないんじゃないかなと、ちょっと。

<青島委員>

- ・通常は通園バスがあるところへ行かせますが、先ほど言われるように、基本が徒歩ですので。それと、そのまま小学校へ上がりますから、同じ友達がいる学区の幼稚園に行って、同じ学年が小学1年生になるわけですから、わざわざよその幼稚園に行かせるという方はまずいないんじゃないかな、と。

<竹島委員>

- ・いえ、私が言っているのは、入所待ち児童のカウントの考え方がどこなのかということ、この前ある会議で質問したんですよ。そうしたら、私立のところは、どこに住んでいようが入れます、と。ただし、幼稚園のところ、公立、「公立」というとおかしいですが、幼稚園は、そんなにたくさんないですね、岡崎もあります。そのところは、私たちの住んでいるところの人が例えば鷺津のほうへ入りたいといっても、これは駄目です、学校区と同じようなあれを設けているから。

<青島委員>

- ・会長、それは、すみません、ここには詳しい人間がないので、はっきりと確認していただいたほうがいいと思いますので。

<竹島委員>

- ・それは、いい。わかった。市のほうも、ちょっとそこところはちょっとまた調べておいて。別に今の議論の中では必要ないところですが、たまたま今そういうお話があったものですから、確認の意味で質問させてもらったものですから、はい、いいです。

<委員長>

- ・ちょっと今正確なことはわからないと思いますので。ちょっと時間も押してきました、このあと、これのパブリックコメントを募集するとかそういったこともありますので、そろそろスケジュールのほうに行きたいのですがよろしいでしょうか。

<袴田委員>

- ・最後に一つ。いろいろ話を聞かせていただいている、成功している市とか、そういったところで、同じような規模とか、何か成功事例みたいなものがあるとわかりやすいかなと思うのですが、そういったところはないですか。参考になれば、そういったところでうまくいったよというものが出ているので、表現上わかりやすいかなということがあるので、一度ちょっと教えていただきたいな、と。

- ・今、大きくばあつと言われているんですけど、本当に成功している市は多分あると思うんですよ。そういったところであれば、市場調査ではないですが、ほかに日本全国であれば、いい参考になるかなと思うんですが。

<委員長>

- ・ここでお示しできるかどうかというのはちょっとわかりませんが、最終的な素案をまとめる段階では反映させるようなかたちでお願いしたいと思っています。
- ・では、スケジュールのほうを進めさせていただいてよろしいですか。では、スケジュールにつきまして、事務局からお願いいたします。

(3) スケジュールについて

<事務局>

説明（資料3）

(質疑・意見交換)

<委員長>

- ・ありがとうございました。これまでの説明で質疑等ありましたら挙手をお願いいたします。よろしいですか。
- ・本日予定していました議事は以上となります。皆さん、協力ありがとうございました。それでは、事務局にお返しします。

8. 連絡事項

次回の会議の日程について、3月15日（火）と16日（水）を候補日とし、再度確認する。

9. 閉会

(以上)